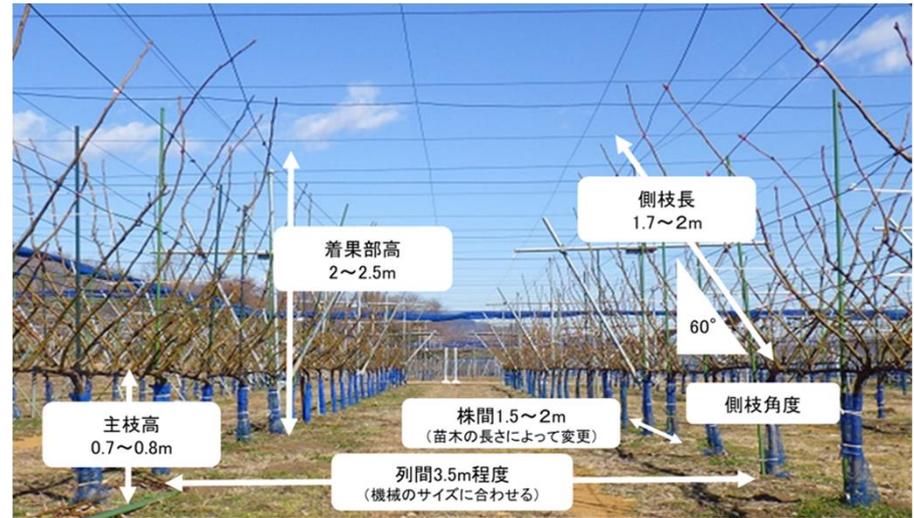


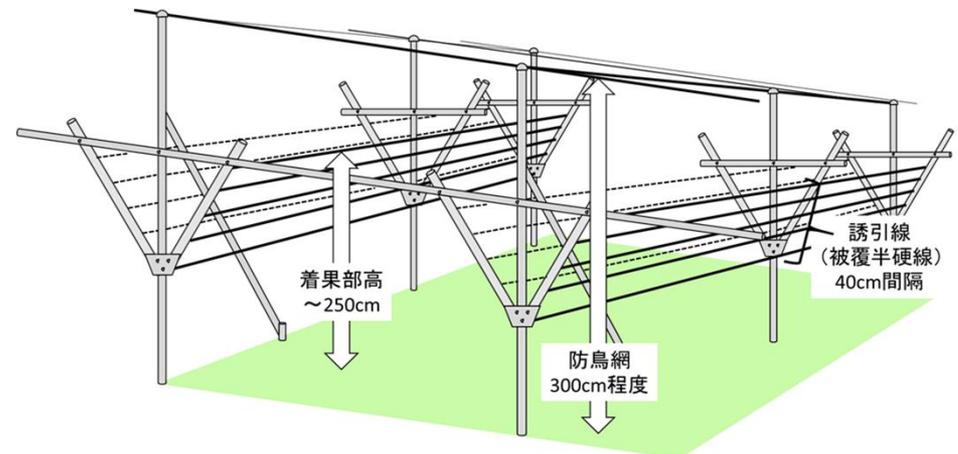
ナシのジョイントV字樹形とは

ジョイントV字樹形とは、
主枝高を従来よりも下げた新しい
ジョイント樹形です。従来180cm
程度の主枝高を70～80cmの高さ
とし、そこから側枝を斜立させて、
仰角60°の架線に誘引すること
でV字の樹冠を構成する樹形。



◎専用棚が必要

ジョイントV字樹形では樹形に
適応した専用の果樹棚が必要
になります。



神奈川県農業技術センターで使用している棚の例

使用した苗の種類



1年生苗

- 苗の再養成が不要である。
- 長めの1年生苗の入手先は限られる。
- 苗木長が短いと株間を狭める必要があり、植栽本数が多くなる。



2年生苗

- 定植後の新梢伸長が良好である。
- 苗木の養成に労力（かん水、施肥等）がかかる。

定植～結実(所内甘太1年生苗)



ジョイント接ぎ木直後



定植1年目(2019年)



開花期(2020年)



収穫期(2020年)

ジョイントV字樹形による早期成園化

定植2年目から収穫(目標1t/10a)
を目標に研究に取り組みました。

「甘太」2年生苗定植区では、10a換算収量
でこの目標を達成し、早期成園化を実証し
ました。



「甘太」1年生苗区の着果状況

ジョイントV字樹形定植2年目の収量(南相馬市鹿島)

品種	定植苗 年生	1樹当たり 収量(kg)	10a当たり 換算収量(kg)	樹間距離 (m)	10a当たり 植栽本数
甘太	1年生苗	2.54	904	0.8	356
	2年生苗	5.64	1,167	1.3	207
王秋	1年生苗	2.65	628	1.2	237
	2年生苗	5.50	863	1.8	157

2019年3月定植、2019年4月ジョイント接ぎ木

定植後1～4年目の経過 (所内「王秋」2年生苗)

1年目



2年目



3年目



4年目

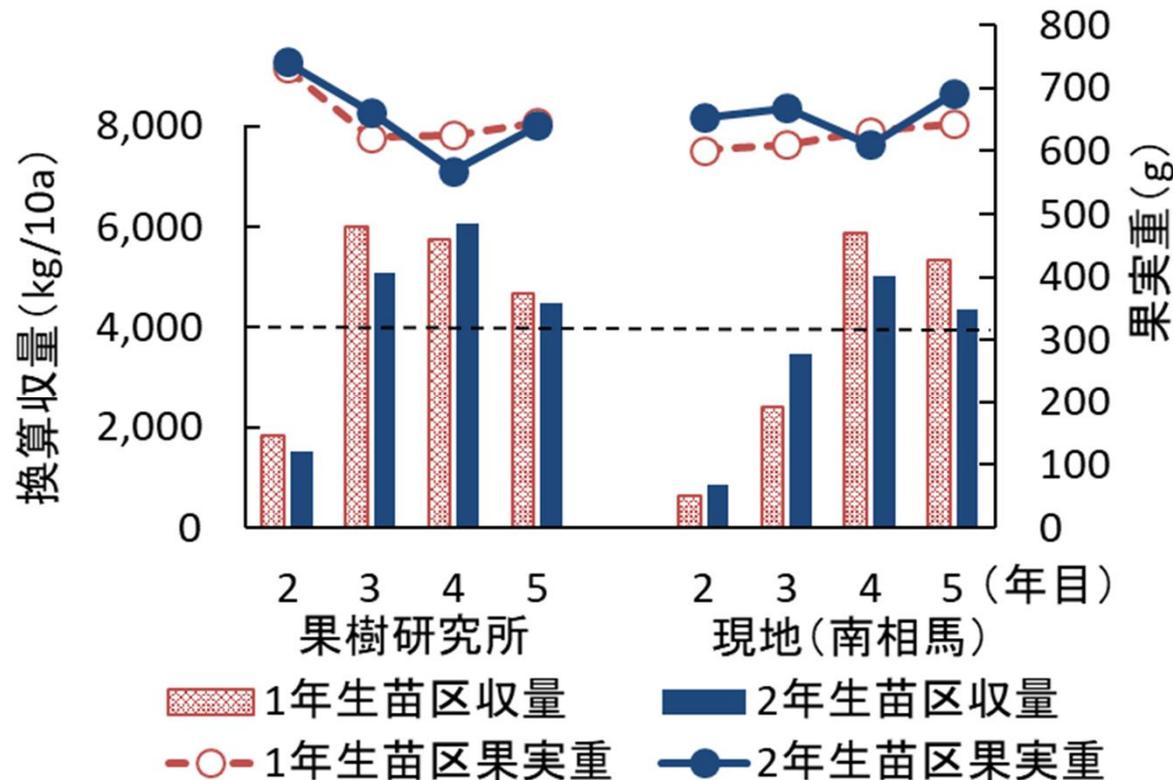


所内「王秋」の生育経過(2年生苗)



「王秋」の収量の推移

- 定植後4～5年目から側枝を更新するため、側枝本数や着果量が減少するが、定植後5年目では10a当たり4,400～5,300kgの成園並の収量を維持する。



定植後1～4年目の経過 (現地「甘太」1年生苗)

1年目



2年目



3年目

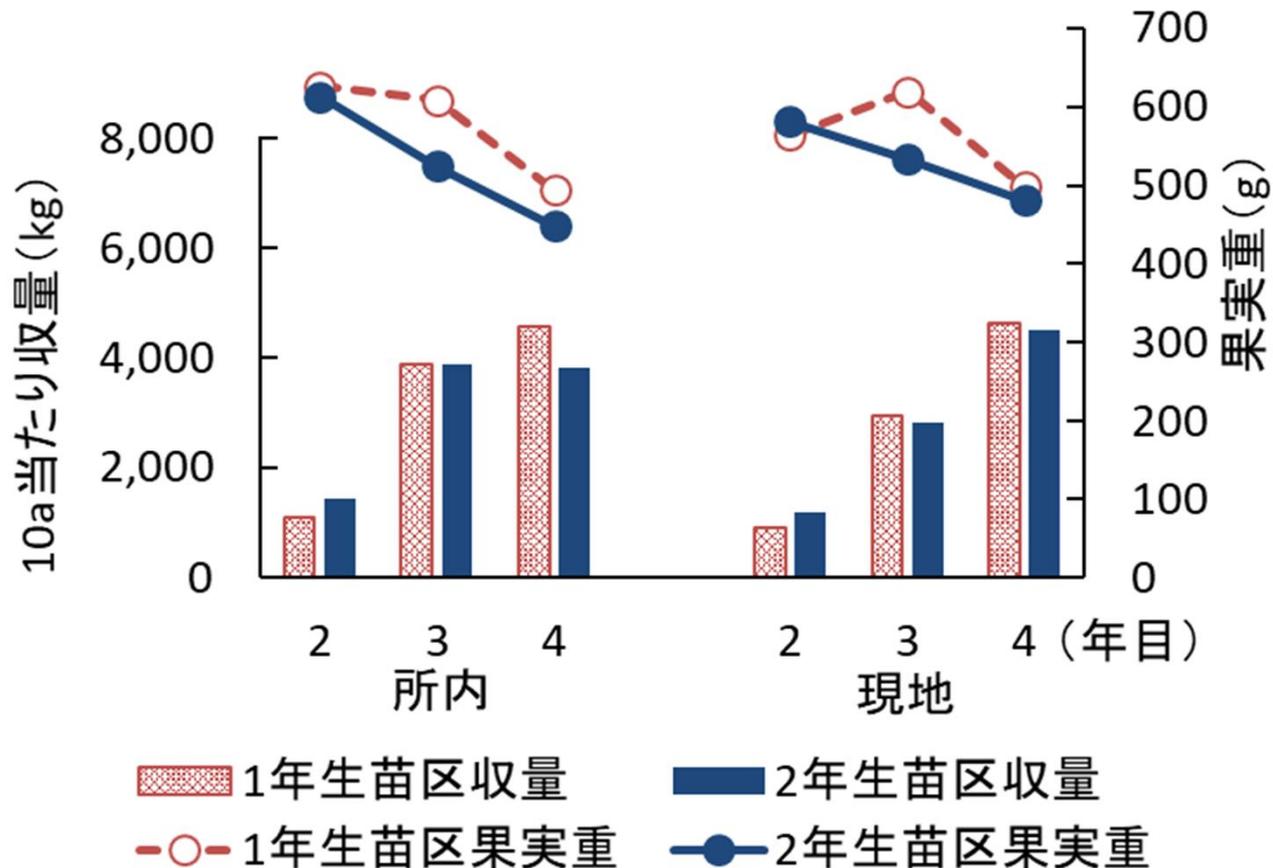


4年目



「甘太」の収量の推移

- 定植後3年目から収量が増加し、定植後4年目には10a当たり3,800~4,600kgの収量が得られた。



留意点

- 本技術は神奈川県で開発された技術であり、特許が取得されているため、ジョイント仕立てに取り組む際は、特許使用料金を支払う必要がある。
- 安定した収量を確保するためには、夏季の摘心や新梢誘引を行うとともに、3～5年を目安に計画的に側枝更新を行う。